

基礎生活における主体性の尊重と余暇との関連

～社会福祉サービス援助者のレクリエーション観～

○佐近慎平¹⁾、外崎紅馬²⁾、金子勝司³⁾、千葉佳名江⁴⁾

1) 仙台大学大学院 2) 日本大学大学院 3) 福島大学大学院 4) 仙台医療福祉専門学校

I. 研究の目的

社会福祉サービスとして提供される、レクリエーション活動は、施設職員のコントロール度の高い、処方型のレクリエーションの提供が多い傾向にある。レクリエーションの定義の一つとして、“基本的に自発的な行為・活動”があり、処方型のレクリエーション活動援助と平衡し、利用者本人自身が自発的に行き、生活への定着を目的としたレクリエーション活動援助も必要不可欠である。福祉サービス利用者本人自身の主体性によるレクリエーション活動は、衣食住を中心とした“基礎生活”の安定から生まれるものであり、基礎生活をより快適にすること（生活のレクリエーション化、良質の介護サービス）により、自発的レクリエーション意欲が発生されるのではないかと、しかし、サービス提供者のレクリエーションサービス意識の差、業務効率、サービス形態等により、サービス利用者の主体性が抑制されてしまう傾向もみられる。基本的基礎生活サービスに加えて、快適性や、楽しみを見出すことを促すことにより、基礎生活の安定、余暇生活へのレクリエーション欲求、更には生活への主体的レクリエーションの定着（レクリエーションの生活化）は、社会福祉サービス利用者の生活の活性化、QOL（生活の質）の向上に寄与することと考えられる。

本研究は、学生の基礎生活における社会福祉サービス利用者の主体性尊重の意識、余暇の自発度・退屈度（余暇に関するアンケート）が、社会福祉サービス利用者に対する自由度観への影響を示唆することを目的とする。

II. 研究方法

主体性尊重・自由度の意識調査は、介護福祉士を養成している専門学校 A 校に在学する介護福祉士課程学生 120 名を対象とし、質問紙法による集合調査、余暇歴に関するアンケートを実施した。意識調査の内容は、高齢者の福祉施設で提供されるレクリエーション活動援助、特に生活のレクリエーション化において、利用者により自由・主体性がないと思われるものを自由記述による回答を求め、集計・加筆し、質問表を作成し 5 段階で評価した。

自発度・退屈度に関しては、「余暇歴に関するアンケート」により集計した。

Ⅲ. 結果

主体性尊重・自由度の意識調査は、「食事の場面」「衣服の場面」「排泄の場面」「入浴の場面」「口腔の場面」「睡眠の場面」「住環境の場面」の7つのカテゴリーに分けられた。特に主体性・自由度がないと感じた項目は、「食事の場面」において、「食事する時間の選択」(1.736±1.093)、「好みの食事」(1.984±1.057)、「食器を洗う」(1.914±1.152)、「入浴の場面」においての「入浴する時間の選択」(1.868±1.07)、「入浴している時間」(1.93±1.146)、「入浴回数、頻度」(1.967±1.142)において主体性がないと感じている。

意識調査と自発・退屈度の関連は、表1、2、3に示す。意識調査と自発度、退屈度の間には、相関が見られなかった。

表1. 学生の退屈度別、利用者に見る自由度観 (平均±S. D.)

	I (n=9) ~1.5	II (n=44) 1.51~2.25	III (n=35) 2.26~2.75	IV (n=23) 2.76~3.25	V (n=4) 3.26~3.75	VI (n=3) 3.76~
食事	2.48 ± 1.46	2.56 ± 1.43	2.52 ± 1.37	2.52 ± 1.67	2.50 ± 1.24	2.31 ± 1.40
衣服	2.63 ± 1.38	3.19 ± 1.45	3.06 ± 1.32	2.95 ± 1.33	2.91 ± 1.16	3.36 ± 1.10
排泄	2.92 ± 1.49	3.22 ± 1.39	3.21 ± 1.39	3.17 ± 0.80	2.62 ± 1.30	2.73 ± 1.12
入浴	2.35 ± 1.34	2.64 ± 1.48	2.53 ± 1.39	2.64 ± 1.33	2.34 ± 1.18	2.48 ± 1.43
口腔	2.39 ± 1.35	2.87 ± 1.34	2.82 ± 1.28	2.77 ± 1.16	2.66 ± 1.03	2.97 ± 1.13
睡眠	2.42 ± 1.31	2.75 ± 1.59	2.77 ± 1.33	2.63 ± 1.18	2.26 ± 1.01	2.44 ± 1.15
住環境	2.48 ± 0.87	2.66 ± 0.65	2.99 ± 0.69	2.77 ± 0.56	2.45 ± 1.21	2.73 ± 0.94
平均	2.52 ± 1.39	2.48 ± 1.32	2.82 ± 1.47	2.83 ± 1.57	2.76 ± 1.35	2.51 ± 1.18

表2. 学生の自発度別、利用者に見る自由度観 (平均±S. D.)

	I (n=0) ~1.5	II (n=6) 1.51~2.25	III (n=17) 2.26~2.75	IV (n=32) 2.76~3.25	V (n=44) 3.26~3.75	VI (n=19) 3.76~
食事		2.82 ± 1.28	2.28 ± 1.44	2.54 ± 1.58	2.47 ± 1.40	2.67 ± 1.41
衣服		3.39 ± 1.12	2.94 ± 1.34	3.06 ± 1.37	3.04 ± 1.32	3.11 ± 1.42
排泄		3.47 ± 1.37	3.00 ± 1.46	3.16 ± 1.34	3.10 ± 1.37	3.21 ± 1.38
入浴		2.78 ± 1.42	2.37 ± 1.38	2.58 ± 1.40	2.58 ± 1.42	2.69 ± 1.40
口腔		3.20 ± 1.07	2.73 ± 1.26	2.79 ± 1.33	2.77 ± 1.26	2.76 ± 1.26
睡眠		2.64 ± 0.96	2.61 ± 1.36	2.75 ± 1.34	2.65 ± 1.52	2.74 ± 1.32
住環境		2.88 ± 1.00	2.80 ± 3.26	2.79 ± 1.27	2.74 ± 1.31	2.80 ± 1.31
平均		2.99 ± 1.22	2.65 ± 1.80	2.80 ± 1.40	2.75 ± 1.40	2.85 ± 1.41

表. 3 学生の利用者に見る自由度観と退屈度、自発度の相関

	退屈度	自由度観	自発度	自由度観
退屈度	1		自発度	1
自由度観	-0.13986444	1	自由度観	0.074505626
	$t_0=1.52133 < t=1.98062$		$t_0=0.80468 < t=1.98062$	
	両群間で相関なし		両群間で相関なし	